

3 WinActor から広がる DX ② (WinActor Cast on Call)

DX 拡大に貢献するクラウド型 RPA サービス「WinActor Cast on Call」

お客さまの DX 拡大に貢献しているのが、データの作成・転記・加工・照合といった、日々の仕事の中で欠かせない業務を簡単に自動化できる従量課金制・固定シナリオの RPA サービス「WinActor Cast on Call」だ。NTT-AT は、本サービスを 2019 年 9 月に開始。以来、DX 時代の新しい業務自動化ソリューションとして、サービスのブラッシュアップを図っている。

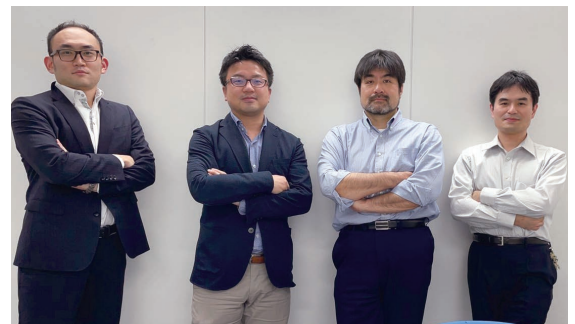
業務自動化を簡単・迅速に、しかも料金は使った分だけ

「WinActor Cast on Call」は、ライセンス販売による WinActor の派生商品として、2019 年 9 月に生まれた。サービス名称の WinActor Cast on Call には、シナリオに従って自動化を演じる俳優(作業実行者)の“配役(Cast)”を出番時に呼び出す(on Call)という意味合いが込められている。

本サービスの発案者でサービス開発を率いる AI ロボティクス事業本部 ディスラプティブイノベーション ビジネスユニットの山本顕範 BU 長は、「業務の自動化ツールとして非常に優れている WinActor を、大企業だけでなく、導入や運用保守に費用を割けない中小企業を含めより多くの方々にもっと手軽に使っていただくことと、お客さまの利用動向を把握してレコメンデーションを行う仕組みをつくることを視野に考案したクラウドによるサブスクリプションモデルの全く新しい RPA サービスです」と語る。

WinActor Cast on Call の最大の特徴は、シナリオを開発する必要がな

く、自動化したい業務にマッチしたシナリオを選んでクラウドからダウンロードして実行するだけ。必要であれば複数のシナリオを組み合わせることで業務を自動化する。しかも料金は、ご利用に応じた従量課金制で予算に応じて柔軟に利用できることだ。また、クライアント PC にて WinActor Cast on Call 専用のクライアントソフトを起動することで、個人情報や機密情報が多く含まれる業務データをクラウド上にアップせずに自動化を実現できる。シナリオの設定ファイルは、脚本のト書きの意味で「スラッグライ



AI ロボティクス事業本部 ディスラプティブイノベーション BU WinActor Cast on Call 担当 (右から 2 番目: 山本 BU 長)

ンファイル」と呼び、ユーザー環境の設定を記述することで、同じシナリオを利用しても個々のユーザー環境に応じて動作する。自動化のシナリオは、企業や自治体で行われている汎用的な業務を自動化するシナリオをはじめ、WinActor Cast on Call

- 「シナリオを開発せず、“選んで実行する”だけの全く新しい RPA」サービス
- 従来の従量課金制&クレジット支払に加え、**定額制&請求書支払**にも対応
- **Mobile 端末**による遠隔操作にも対応し、フレキシビリティが向上

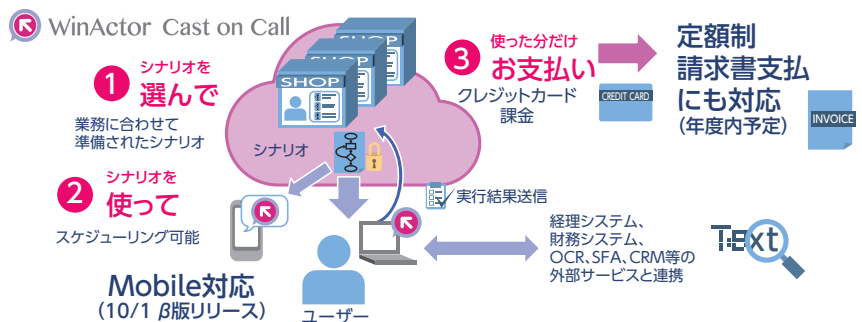


図 1 「WinActor Cast on Call」のアップデート概要

のパートナー企業が作成した特定業務のシナリオが公式サイト (<https://castoncall.winactor.biz/>) に日々アップロードされている。

WinActor Cast on Call を活用した共通業務の一括自動化

図2に WinActor Cast on Call の活用例として、共通業務の一括自動化の例を示す。パートナー企業はテナントとして、特定業種向けに特化したシナリオや企業や取引先で使われている共通・類似様式のシナリオを提供し、社内ならびに企業グループの効率的かつ迅速な DX を支援している。テナントの増加は WinActor Cast on Call の利用拡大につながる。これまでは、NTT-AT が独自に作成するものが多かったが、ここに来てシナリオの提供に興味を持つテナントが増加しているという。

例えば、国際的な電子商取引を行う越境 EC が、中央省庁の補助金施策もあって、非常に盛んになってきている。越境 EC 事業は、税関の書類処理が非常に煩雑で大変なことから、この業務に特化したシナリオを提供するテナントもいる。「越境 EC 業務関連シナリオ」では受注情報から、伝票およびインボイスの作成、発注者への連絡を一貫して自動で処理し、1 件あたり 30 分程度かかっていた作業を 3 分程度に短縮した。また、前述したように、自社で開発した会計ソフトとパックで提供する自動化シナリオの開発に取り組んでいる事業者もいる。

企業グループ内の複数部門で、共通業務シナリオを統一的に使うことで効率的かつ迅速に DX を実現することが可能だ。しかもサービスサイ

- 企業や取引先で使われている共通・類似様式をシナリオ化
- 社内ならびに企業グループの効率的かつ迅速な DX を支援

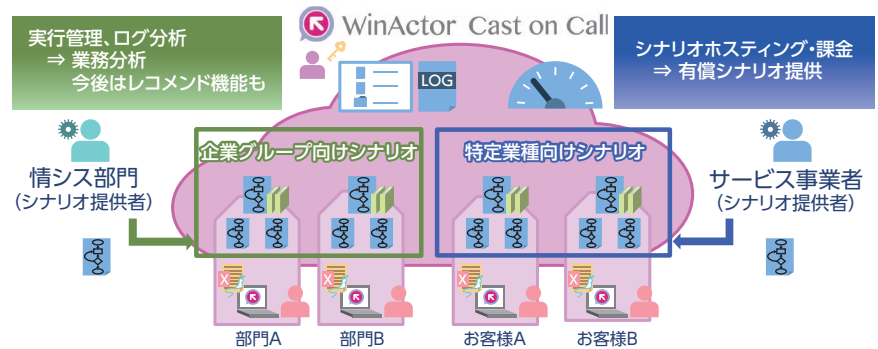


図2 「WinActor Cast on Call」の活用例 (共通業務の一括自動化)

ト上の「ダッシュボード」ではログ分析や実行管理ができるため、シナリオ提供者の情報システム部門・サービス事業者の負担軽減にもつながる。また、サブスクリプションモデルであるためシナリオの保守や管理も不要だ。

2020年度中に定額制&請求書支払と、Mobile 端末にも対応

利用料金については、従来の従量課金制&クレジット支払に加え、定額制&請求書支払にも今年度内に対応する予定だ。個人利用はクレジット支払が利用しやすいが、企業の場合はクレジット支払が難しいことから、請求書支払への対応は不可欠だ。これにより、個人と企業の両方の利用が拡大することが期待できる。実際、定額制を利用して、特定の業務ソフトと自動化シナリオをパックにして提供することを考えている事業者もいるという。

WinActor Cast on Call の利用が拡大すると、シナリオの利用傾向を踏まえたレコメンドサービスも提供可能になる。これは、ユーザーのニーズに合わせたシナリオを多数用意しておき、ユーザーが自動化したい業務などのキーワードを入

力すると、最適なシナリオがレコメンドされるというものだ。

このサービスを実現するためには、大量の利用データが必要であり、そのための価格設定に加え、単純な動作のシナリオを部品集として用意し、それを組み合わせて簡単に自動化が行えるような使い方にも取り組んでいる。

利用拡大に向けた新たな機能の提供の第一弾が Mobile 端末対応で、2020年10月1日にβ版をリリースしている。これは、AndroidとiOSを使って、WinActor Cast on Call のアカウントを持つユーザーが Mobile 端末からログインすることで、ローカル PC の Cast on Call クライアントに対し、リモートからのシナリオ実行指示や実行結果の確認が可能となる機能だ。将来的には、Web API による連携シナリオの提供も計画している。

山本 BU 長は、「現在のオンプレミスの PC 上の WinActor を拡張し、Windows に限らずクラウド間のシステム連携や業務連携に対応した API を活用して、自動化機能そのものも連携させたいと思っています」と述べている。